

研究機器共同利用促進のための専任職員公募

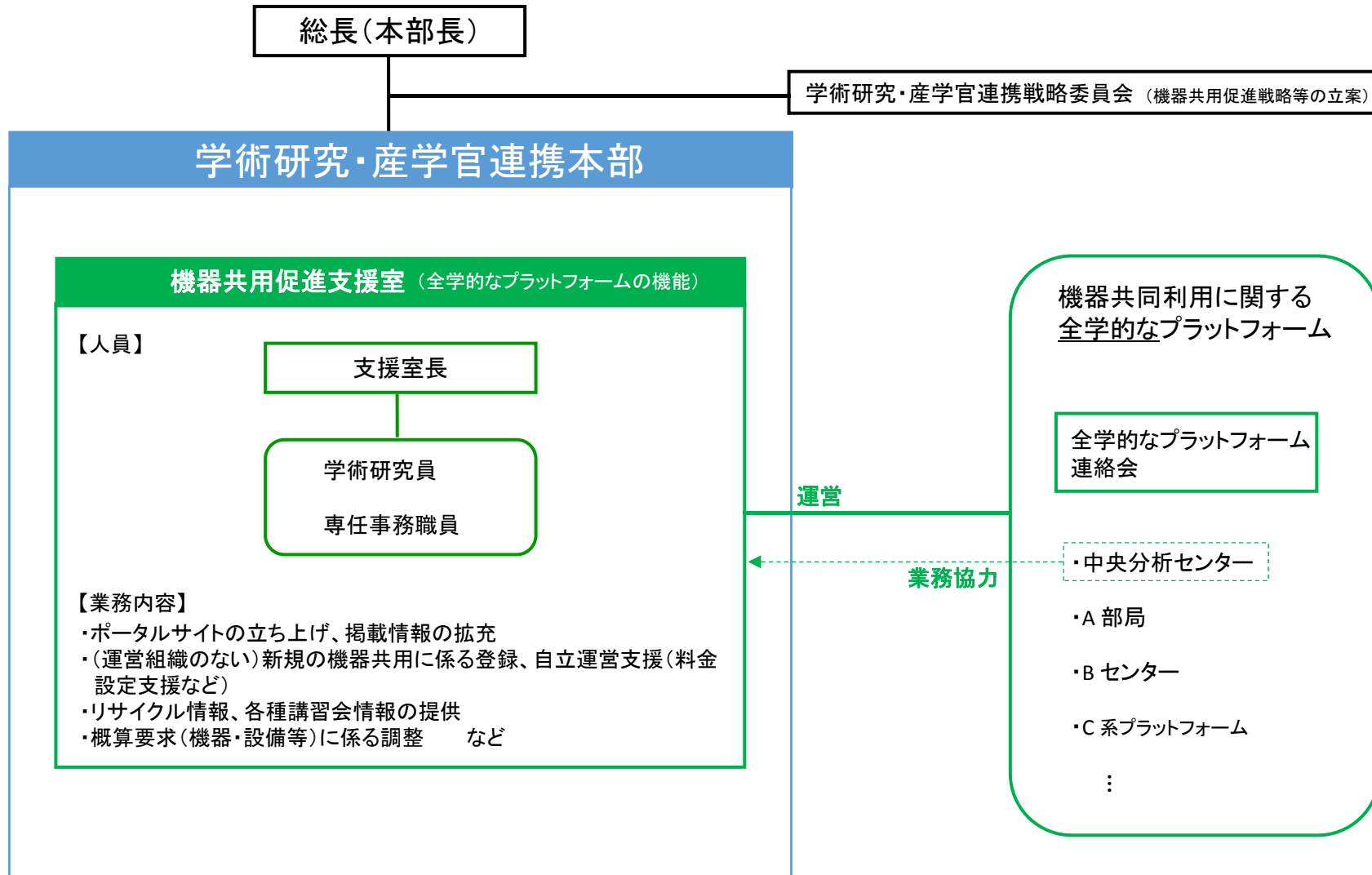
■ 求人情報

1. 機関名称	国立大学法人九州大学(学術研究・産学官連携本部)
2. 職種	学術研究員(経歴等により「特任准教授」又は「特任助教」の称号付与の可能性あります。)
3. 担当業務内容等	<p>・任用予定日:平成30年12月1日以降(応相談) ・雇用期間:平成31年3月31日まで(以降1年毎の更新可(最大10年)) ※雇用期間の取扱については学内規程のとおりとする。</p> <p>◆仕事の内容 ・研究機器の学内外共同利用促進に関する業務 -ポータルサイトの構築・運営(Webページの構築や入力に関しては他の職員が支援します。) -共同利用に係わる教員及び事務部との連絡調整 -一部局における共同利用体制立ち上げ支援 -会議運営・資料作成など -関連会議(全国)への出席・情報収集など ・その他、学術研究・産学官連携本部に関する業務 ※専任の事務職員が1名配置されています。 ※添付資料をご参照ください。</p> <p>◆研究分野 ・その他 本職は、研究支援業務のため、ご自身の研究を業務として行うことはできません。</p>
4. 応募資格	博士の学位を有する者 (又は博士の学位を有する者に相当する研究能力を有すると認められる者)
5. 勤務場所	〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744番地 九州大学 学術研究・産学官連携本部
6. 勤務時間	9:00~17:45(内 休憩時間60分)を原則とする裁量労働制
7. 休日・休暇	土日祝日、年末年始、年次有給休暇、夏季休暇
8. 給与・賞与	日給 12,800円~ 職歴等に応じて九州大学有期契約職員給与規程の範囲内で日給を決定し、当月分の勤務実績を翌月の21日に支給します。(交通費等諸手当・賞与なし)
9. 待遇・福利厚生	雇用保険、労災保険、健康保険、厚生年金
10. 応募方法	<p>【選考方法】 第一次選考 書類選考 ※書類選考後、面接日時、場所をご連絡いたします。 第二次選考 11月を予定 ※面接に伴う交通費等応募に係る費用は自己負担となります。 ※面接試験等実施場所:九州大学</p> <p>【提出書類】 ①履歴書1部、②職務経歴書1部(A4 2頁以内)、③志望動機(A4 2頁以内・研究機器等にどれ位の知識を有するかの記述を含む)、④研究業績リスト(研究業績がある場合) ※任意様式可。</p> <p>【提出期限】平成30年11月2日(金)必着 (応募状況により、募集期間を延長することがあります。)</p>
11. 応募連絡先	<p>【書類提出先】 〒819-0395 福岡市西区元岡744番地 九州大学 研究・産学官連携推進部研究企画課総務・企画係 ※封筒に「学術研究員応募書類在中」と朱書きのこと。 ※応募書類は返却しませんので予めご了承ください。なお、応募書類等により本学が知り得た個人情報は、今回の選考および採用のためにのみ使用いたします。</p> <p>【問合せ先】 九州大学 研究・産学官連携推進部研究企画課総務・企画係 TEL: 092-802-2320 / FAX: 092-802-2391 E-mail: kissomu@jimu.kyushu-u.ac.jp</p>

■ 機関情報

求人者	国立大学法人九州大学 学術研究・産学官連携本部 (当本部の活動については、次のホームページを参照下さい。) 本部ホームページ: https://airimaq.kyushu-u.ac.jp/ja/index.php
※	【参考:九州大学ホームページ】: http://www.kyushu-u.ac.jp/

研究機器・設備共用のための全学的なプラットフォーム



研究機器・設備共用のための全学的なプラットフォーム

課題 学内の研究機器・設備の多くが共有されていない
学内の共用機器の情報が一本化されていない

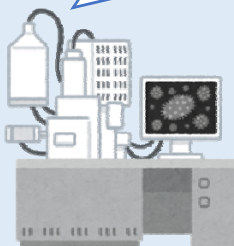
最新の研究機器を使いたいけどどの部局にあるのか分からない

部局外だと機器利用の相談窓口や利用許可の手続きが分かりにくい

使わなくなった機器をどこかで活用してもらえないか

研究機器の共用システムを構築したいけど、料金設定などが面倒

いつも予約が一杯。他の部局に同等の機器がないかな？



企業からの利用依頼にどう対応したらいいか分からない

全学的なプラットフォームの構築

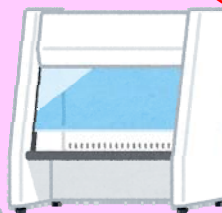
全学の共用機器の情報がポータルサイトで一元的に管理されているので研究計画が立てやすい

共用機器を使って最先端の研究にチャレンジできる！

リサイクルシステムを利用して機器の譲渡を受け、一気に研究が加速した

料金設定などの支援を受け、自律的な機器共用システムを構築できた！

ポータルサイトで他部局の機器の利用窓口や利用条件もすぐ分かる



先事例の紹介やアドバイスを受け、企業の依頼に応えるシステムを構築した！

効果 機器共用による研究費の有効活用、情報一元化・手続改善による研究時間の確保、若手研究者・女性研究者・外国人研究者に優しい研究環境の提供

⇒ 全学的な研究機器の共同利用による研究力の向上